

キイロシヨウジヨウバエの非染色体性因子 delta の  
mutagenic action

皆森寿美夫・伊藤和子 (広島大・理・動)  
S. MINAMORI and K. ITO: Mutagenic action  
of an extrachromosomal element delta in  
*Drosophila melanogaster*

キイロシヨウジヨウバエの非染色体性因子 delta は第2染色体上に致死突然変異, 半致死突然変異を頻発させる。致死および半致死突然変異率は delta の増殖をゆるす第2染色体上では, cluster を無視した場合, 平均して約9%である。致死突然変異の cluster が多数得られたことから, delta によって誘発される突然変異は premeiotic cell stage におこるものと思われる。

独立に誘発された113の致死突然変異の第2染色体上における座位を調べたところ, これらは染色体地図上の0-10, 55-65, 70-85 単位の3ヶ所に集中していることがわかった。

生殖細胞の形成におよぼす紫外線照射の影響

白根輝清 (広島大・教養・生)

T. SHIRANE: Effect of irradiation with ultra-violet ray on the formation of the germ cell

ニホンアマガエル (*Rana Japonica* Günther) の二細胞期の植物半球を紫外線で照射し, st. 24, st. 25, (Schumway) および st. II (Taylor and Kollors) の発生段階で生殖細胞の存在の有無について調べた。st. II—生殖腺は対照個体のそれと比較して細く, 10個体中2個体は中実であったが, 他の8個体では精網索細胞の進入が認められないか, あってもわずかである。いずれの個体にも生殖細胞は認められなかった。

st. 25—対照個体の生殖褶と対称部域に中胚葉性細胞の小集団は個体によって認められるが, 生殖細胞は24個体いずれも認められない。

st. 24—30個体中1個体のみ内胚葉に由来する原生殖細胞11個が観察されるが, 他の個体では対称部域に空所が在り, 原生殖細胞は認められない。